

鹿児島県水産技術開発センター主催の「魚病関連講習会」で カンパチ安定供給につながる取り組みを紹介しました

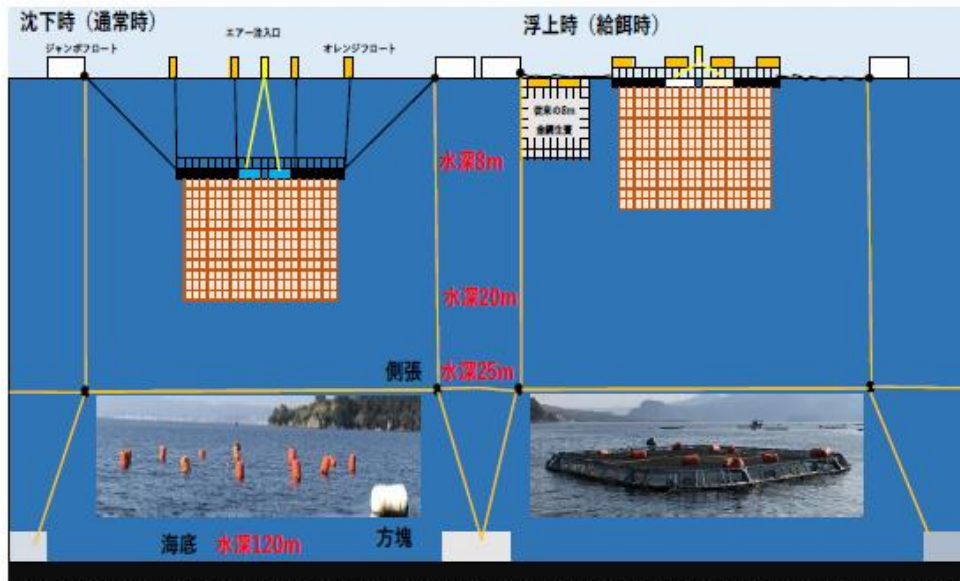
マルハニチロ株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：池見 賢）のグループ会社で、養殖事業を行う株式会社マルハニチロ AQUA（本社：鹿児島県鹿児島市、代表取締役社長：篠原 孝司）は、2024年1月30日に、鹿児島県水産技術開発センター（鹿児島県指宿市）主催の「魚病関連講習会」で、「浮沈式銅合金金網生簀」導入による魚病対策について紹介しました。講習会には、地元漁協関係者やブリ・カンパチ養殖事業者など、60名以上が参加しました。

銅合金製の生簀や浮沈式生簀は以前から養殖業界で用いられています。ブリ・カンパチ養殖を行っている同社桜島事業所は、これらを組み合わせた「浮沈式銅合金金網生簀」の開発によって魚病の発症リスクを低減させ、自然環境に左右されないブリ・カンパチの安定供給を目指しています。同生簀は、魚病の原因となる寄生虫の卵の付着を防ぐ銅合金で金網が作製され、給餌時以外は魚に寄生しにくい海中に沈下させることで、魚病を予防する効果があります。

養殖業者にとって魚病対策は長年の課題であり、参加者からは多くの関心と質問が寄せられました。この技術を養殖事業者に共有することで、地域貢献はもとより、日本のブリ・カンパチ養殖事業全体のさらなる発展・活発化が期待されます。



「魚病関連講習会」に登壇した株式会社マルハニチロ AQUA 桜島事業所の山本所長役



浮沈式銅合金金網生簀

マルハニチログループは、生物多様性と生態系の保全、持続可能なサプライチェーンの構築のため、今後も新技術によって養殖業界の発展に寄与していきます。

以上

【本件に関する問い合わせ先】

マルハニチロ(株) 経営企画部 サステナビリティ推進グループ
kankyou@maruha-nichiro.co.jp